第2次鳥羽市観光基本計画　概要

◆第2次観光基本計画の基本的な考え方

報告書第1章

計画の位置づけと性格
- 本計画は、鳥羽市の観光が将来進むべき方向性を示す羅針盤としての役割を持ちます。したがって、本計画書に記載された目標を地域で共有し、目標の実現に向かってそれぞれが役割を果たすことが求められます

計画期間：平成28年～平成37年

◆第1次観光基本計画の成果

報告書第2章

第1次観光基本計画（平成20年～平成27年）が目指した観光地鳥羽の姿
- 国際観光時代をリードする“海洋文化都市”の形成
- 皆が幸せを感じる、やさしい鳥羽
- 自立自走できる地域経営の核となる観光産業の持続的発展

2期にわたるアクションプログラムを通じて53事業を実施
- 官民一体となった取り組みを通じて、「観光資源の掘り起こしと保全・活用」や「エコツアー等のガイドツアーの拡充」、「観光ガイドの拡充」などで成果を上げた
- 一方で、「域内交通」などについては十分に成果を上げることができなかった

◆鳥羽市の観光を巡る動向

報告書第2章

国や県による観光振興の取組み
- 政府による観光立国推進基本計画の策定
- 観光立国実現に向けたアクションプログラム
- 三重県観光振興基本計画の策定

旅行市場の動向
- 訪日外国人旅行者数が平成25年に初めて年間1,000万人を突破
- 「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会」の開催決定による更なるインバウンド拡大への期待
- 少子高齢化時代への突入と国内旅行市場の変化・縮小

鳥羽市の観光の現状
- 平成25年に伊勢神宮の式年遷宮を終え、今後は観光客数の減少が想定される
- リーマンショックや東日本大震災後のインバウンド観光客回復の遅れ
- 観光客の総合満足度の中で「大変満足」の比率が低い
- 「食」や「観光施設」、「温泉」に対する観光客の期待

◆鳥羽市の観光の課題と展望

報告書第2章

- 観光客数の維持・拡大の必要性
- 外国人観光客の受入強化の必要性
- 経済効果拡大の必要性
- 鳥羽での滞在を目的とする観光客の拡大
- 観光イノベーションの必要性
- 観光地に相応しい魅力ある空間の形成
- 温泉のさらなる活用
- 地域資源としての鳥羽の海の再認識
- 漁業と観光の連携促進
- 推進体制の強化

◆鳥羽市らしさとは？

報告書第3章

- 町の風景
- うみのなりわい
- 豊かな食
- 生活文化・歴史文化
- 豊かな海、自然美

→ 海と鳥羽との独自の関係性が築き上げた「鳥羽うみ文化」

- 人の魅力
- 多様な地域性
- 住みよい街
- 離島の良さ

◆目指すべき姿

報告書第3章

鳥羽観光の目標像

国際的な滞在拠点を目指した
「鳥羽うみ文化の継承と創造」

- これまで築き上げてきた「鳥羽うみ文化」が将来にわたって継承されると同時に、新たな「風」を入れることでより創造性豊かなものとなる観光地であること
- 市民や観光客が市内で「鳥羽うみ文化」を感じられるような観光地であること
- 鳥羽の魅力である「食」とそれを支える漁業のなりわいが将来にわたって維持される観光地であること
- 観光客が宿泊したくなる滞在型の観光地であること
- 国内だけでなく海外の観光客も魅力を感じる国際的な観光地であること
- 観光産業が持続的であり、観光を支える次世代の育成にも積極的な観光地であること
- 鳥羽観光を支える推進体制がしっかりとしており、関係者それぞれが役割と責任を担う体制が整っている観光地であること

◆目標指標および数値

指標		現状値	目標値（平成32年）
延べ宿泊者数（人泊／比率%）	日本人	171万人泊　／　99.7%（注1）	185万人泊　／　98%
	外国人	4,600人泊　／　0.3%（注1）	38,000人泊　／　2.0%
	合計	172万人泊　／　100%（注1）	189万人泊　／　100%
外国人入込客数（人）		32,000人（注2）	96,000人
観光客満足度（「大変満足」の比率 %）		12.5%（注3）	25.0%
観光消費額・経済波及効果（億円）		数値なし	推計後に目標値を設定する

（注1）：平成24年鳥羽市観光統計資料、（注2）：平成21年鳥羽市観光統計資料、（注3）：平成26年鳥羽市観光動態調査

第2次鳥羽市観光基本計画　概要

◆第2次観光基本計画の施策体系

報告書第3章

目標像	基本戦略	主要施策
国際的な滞在拠点を目指した「鳥羽うみ文化」の継承と創造	戦略1 鳥羽うみの豊かな食を提供する	1－1　食に付加価値を付ける 1－2　漁業や海女のなりわいを継承する
	戦略2 鳥羽うみの文化を伝える	2－1　うみの文化を伝える 2－2　歴史・文化・伝統を継承・活用する 2－3　芸術・文化を活用する 2－4　自然史を活用する
	戦略3 鳥羽での滞在をより魅力的なものにする	3－1　より魅力ある観光施設を目指す 3－2　より魅力ある宿泊施設を目指す 3－3　温泉地としての魅力も高める 3－4　観光資源を創造的に活用する 3－5　鳥羽らしい土産品・特産品を開発する
	戦略4 美しい景観を提供する	4－1　中心市街地の景観を向上させる 4－2　集落や離島の風景を活用する 4－3　美しい景観を観光活用する 4－4　自然環境を保護する
	戦略5 外国人観光客に魅力を伝える	5－1　外国人観光客に魅力的なコンテンツを創り出す 5－2　外国人観光客の受入態勢・環境を整備する 5－3　外国人観光客が訪れやすい環境を作る
	戦略6 鳥羽を発信する	6－1　鳥羽市内での情報提供を強化する 6－2　外部に対する適切な情報発信を行う
観光基盤整備	戦略7 観光基盤の充実・強化	7－1　バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進 7－2　観光地としての防災対策の強化 7－3　周辺地域との連携による観光ルートの構築 7－4　鳥羽までの交通および域内交通の改善
	戦略8 観光推進体制の構築	8－1　観光推進体制の強化と構築 8－2　計画の見直しと評価 8－3　観光統計の充実 8－4　観光財源の確保と有効な活用 8－5　観光産業活性化と人材育成 8－6　市民の参画を促す

◆戦略プロジェクト

報告書第4章

基本戦略および主要施策に基づいて「鳥羽うみ文化」の継承と創造を通じた魅力ある観光地鳥羽を形成するために重点的に取り組むべきプロジェクトを設定します

テーマ別戦略プロジェクト

テーマプロジェクト①　「鳥羽市全体における鳥羽うみ文化ネットワーク構想」【主要施策2－1に対応】

- 市内には海にまつわる一流の文化・観光施設があります。また、集落には海女文化資料館や海女小屋などの施設もあります。そこで、海に関する観光・文化施設それぞれが「鳥羽うみ文化」の発信機能を向上させます。また、それらの施設と屋外のフィールドをネットワーク化することで、鳥羽市全体で「鳥羽うみ文化」の伝達を高めます。

テーマプロジェクト②　「漁業と観光連携」【主要施策1－2に対応】

- 魚介を中心とする食に対しては、観光客の期待も高く、漁業と観光は、鳥羽市の重要な基幹産業として、鳥羽市経済を牽引してきました。しかし、漁業従事者の後継者不足や魚価の低迷など、鳥羽の観光を支える漁業は課題も多く、漁業と観光の連携を通じて鳥羽の魚介類の地元利用の更なる向上とブランド力の向上を目指します。

テーマプロジェクト③　「芸術を活かした観光振興」【主要施策2－3に対応】

- 芸術家や芸術作品を活用して、地域資源を再認識したりこれまでとは異なる客層を呼び込むことを目指します。

テーマプロジェクト④　「インバウンド受入推進」【基本戦略5に対応】

- 訪日外国人旅行者の受入拡大を目指すため、鳥羽のどのような価値を外国人に訴求するのか、という外国人に向けた魅力の掘り起こしや、外国語対応などの受入環境の整備、ターゲットとして取り組む国・地域の検討をし、戦略的に推進していきます。

エリア別戦略プロジェクト

中心市街地プロジェクト　「中心市街地の賑わい・魅力創出」

- 鳥羽駅は観光客にとっての玄関口としての機能を持っています。北側には観光案内所や鳥羽ビジターセンター、鳥羽一番街、鳥羽マルシェ、かもめの散歩道、鳥羽マリンターミナルなど、観光をする上で重要な拠点施設が揃っています。南側の中心市街地には鳥羽城跡を中心に、今も伝統的・歴史的建造物が多く残っています。それらは点ではなく群として残存しており、歴史的景観を形成する要素になっています。こうした多様な観光資源や観光施設を集積する鳥羽駅を中心とする周辺空間については、鳥羽らしさを感じられるような空間へと仕上げます。

離島プロジェクト　「新たな島旅の推進」

- 鳥羽の有人離島は神島、答志島、菅島、坂手島があり、それぞれ、本島にはない個性豊かな魅力を兼ね備えています。そこで、離島の魅力をより一層引き立てながら、島旅を推進します。

◆計画の実現に向けて

報告書第5章

実現に向けた基本的な考え方

- 戦略プロジェクトを実現させるため、アクションプログラムを策定し、より具体的かつ複合的な事業を検討・推進していきます。アクションプログラムは3年ごとに見直します。
- 市民や観光客の視点から優先して取り組むべき事項を整理して事業を推進します。今すぐにできることだけではなく、成果を得るまでに時間を要するものや関係者の意識共有が必要なものなどについても考慮する必要があります。

市民および事業者との協働

- 観光事業者や市民・NPO法人、市がそれぞれの役割を担いながら連携・協力して計画を推進します。
- 「鳥羽うみ文化」の継承と創造を図るためには、これまで直接的には観光事業と関わりが少なかった漁業者等、他産業の従事者にもそれぞれの役割を担っていくことが期待されます。